

令和5年度 学校評価アンケート 結果と分析のご報告

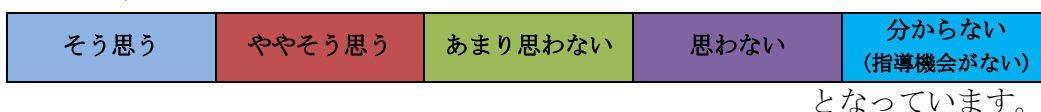
12月に実施しました学校評価アンケートでは、多くの保護者の皆様からアンケートの回答をいただき、ご協力に感謝申し上げます。今年度の教育活動について、学校教育目標実現に向けた3つの柱「健やかな体 心身ともにたくましい子」「確かな学力 進んで学び合う子」「豊かな心 認め合い 助け合う子」の視点から分析し、今後の取組について検討いたしました。その結果をご報告いたします。

また、学校HPにカラー版を載せております。どうぞご覧ください。

学校HP<https://kawasaki-edu.jp/2/110hiyosi/>



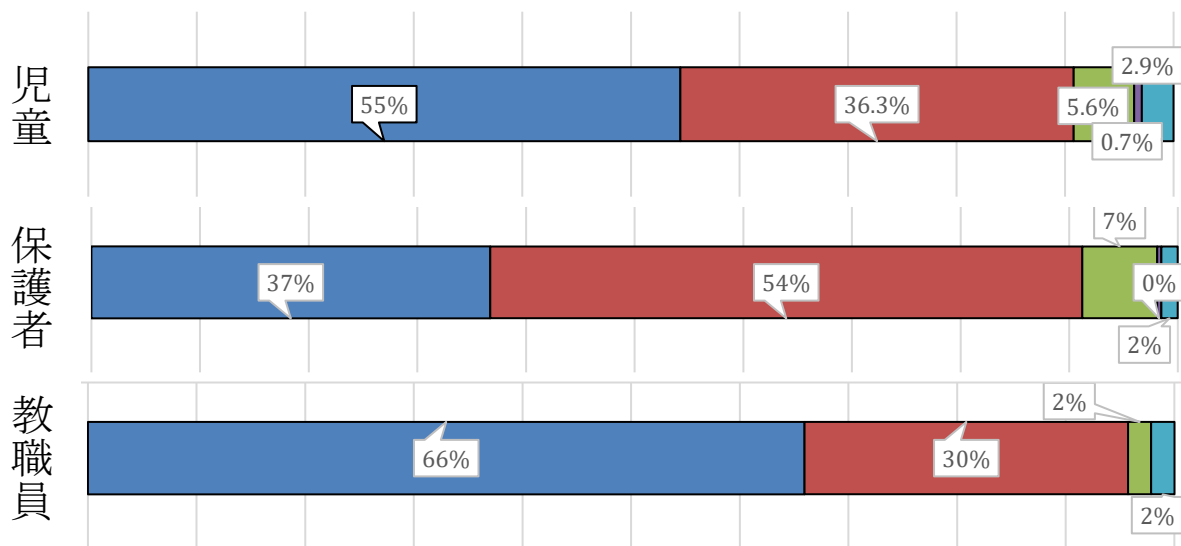
グラフの見方は



となっています。

健やかな体 心身ともにたくましい子

① 児童	保護者	教職員
学校は「日吉の子のやくそく」をもとに学校生活におけるルールを決めています。やくそくを理解し、学校のルールを守って生活していますか。	学校では「日吉の子のやくそく」をもとに学校生活におけるルールを共通理解しながら子どもたちに指導しています。お子さんに学校生活のルールが身に付いてきていると思いますか。	「日吉の子のやくそく」をもとに、基本的な学習ルール、生活のルールを守る指導をしていますか。

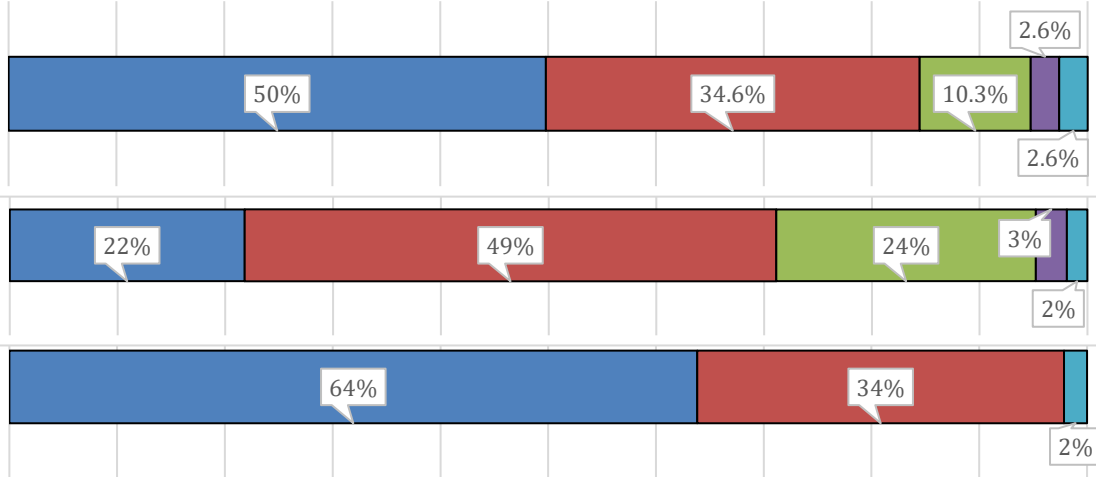


「そう思う/ややそう思う」と回答している児童は約90%で、ほとんどの児童は学校生活上のルールを理解し、守って生活することができています。また、保護者の「そう思う/ややそう思う」と回答している割合も昨年と変わらず約90%です。

今年度、児童会活動（代表委員会）の活動で、子どもたちの中から生活するうえで困っていることやよくしていきたいことを出し合い、話し合っ解決していくようになりました。子どもたちにとって学校生活のルールを確認したり、見直したりするきっかけになっており、なぜそのルールがあり、守らなければならないかを、子どもたち自身が考えられるようになってきました。また保護者の皆様には、設定している理由とともに、学校のルールをご理解いただけるようにお伝えしていきます。

②	児童	保護者	教職員
	すすんで気持ちの良いあいさつをおこなっていますか。	学校では児童指導の重点目標として「あいさつをしよう」に取り組んでいます。お子さんはあいさつを進んでいると思いますか。	自らが元気なあいさつを心掛け、あいさつが進んでできるよう指導をしていますか。

児童
保護者
教職員

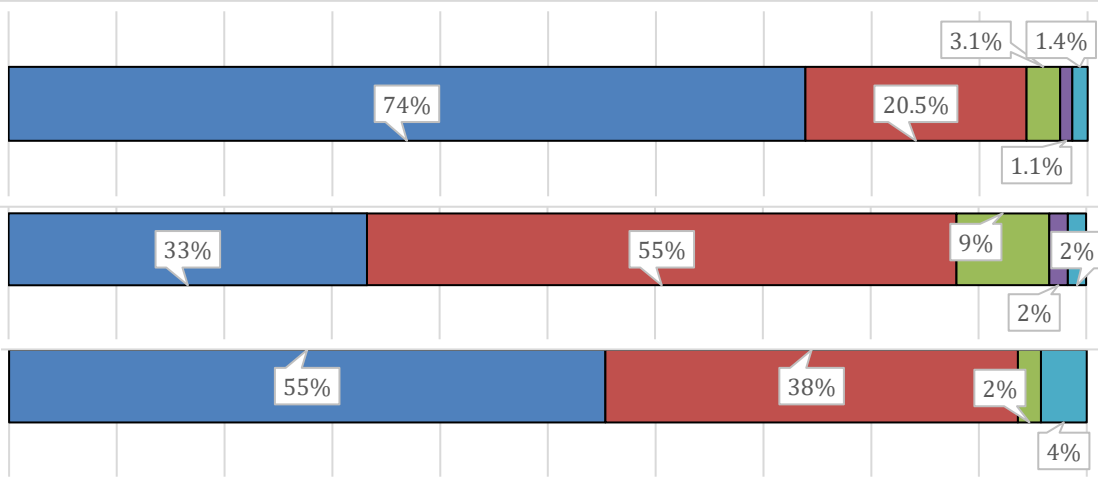


「そう思う／ややそう思う」と回答している児童は約85%で、昨年度と変わらず多くの児童があいさつする習慣を身に付けています。例年、児童会活動では挨拶運動を行っていますが、今年度はさらに月ごとの「あいさつミッション」を設定し、常に挨拶を意識付けできるようにしています。今後、さらに挨拶が定着できるようになってほしいです。一方、「あまり思わない／思わない」と回答している約13%の児童は、すすんで挨拶ができていないようです。

日常生活の中だけでなく、ゲストティーチャーが来た時や校外学習へ出かけた時など、挨拶をする場面は多々あります。教師が範を示しながら、挨拶が習慣づけられるようにしていきます。また「あまり思わない／思わない」と回答した約27%の保護者の皆様にも、子どもたちの挨拶している姿を見ていただけるよう、ご家庭と協力しながら挨拶の大切さを指導していきたいと思えます。

③	児童	保護者	教職員
	学校の行き帰りでは、通学路を守り、安全に気を付けて登校、下校することができていますか。	学校では、児童が安全に登下校できるようにPTAのご協力も得ながら、教職員の地域巡回や登下校の見守りに務めています。お子さんは、安全を意識しながら登下校できていると思いますか。	日頃から児童の登下校時の安全指導に努めていますか。

児童
保護者
教職員

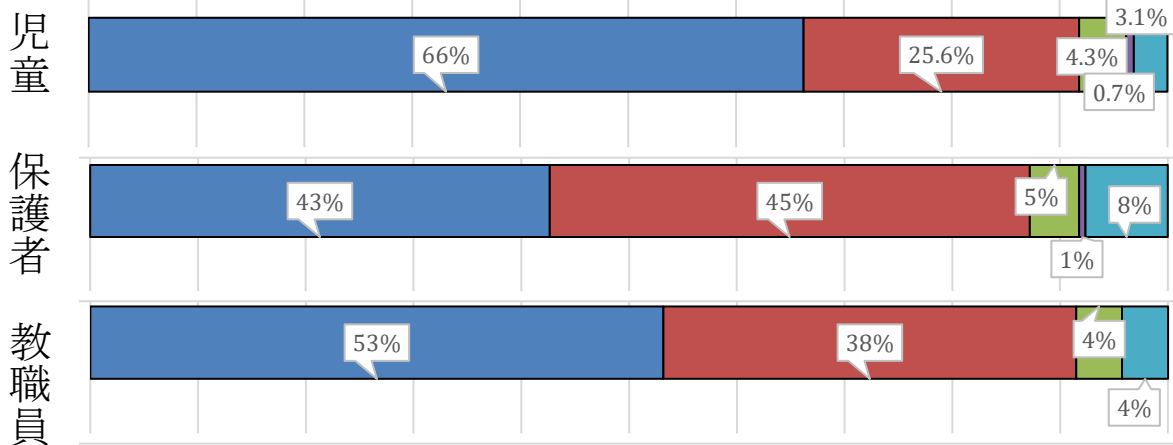


「そう思う／ややそう思う」と回答している児童は約93%、保護者の回答は約88%で、子どもたちは「安全に気を付けて登下校する」という意識をもっていることが分かります。

しかし、「車道にまで広がって歩いている」「遊びながら歩き、急に飛び出すことがあり危ない」など、保護者の皆様や地域の方々から登下校の安全について連絡を頂くこともあります。また、PTA校外委員さんによる下校指導でも、交通ルールを守れていない児童がいるというご報告もありました。校外学習へ出た際には、話に夢中になり周りに注意が向かず、危険な行動をとる子どもを注意することもあります。子どもたちの意識と実際の行動にはギャップがあり、自分が危険な行動をしていることを自覚できていないことが考えられます。

1年生と3年生の交通安全教室だけでなく、校外学習での指導など、機を見て交通ルールや安全について指導していきます。また、毎日の地域の方の見守りやPTA旗当番活動には感謝申し上げます。引き続き、連携して児童の安全を見守っていきます。

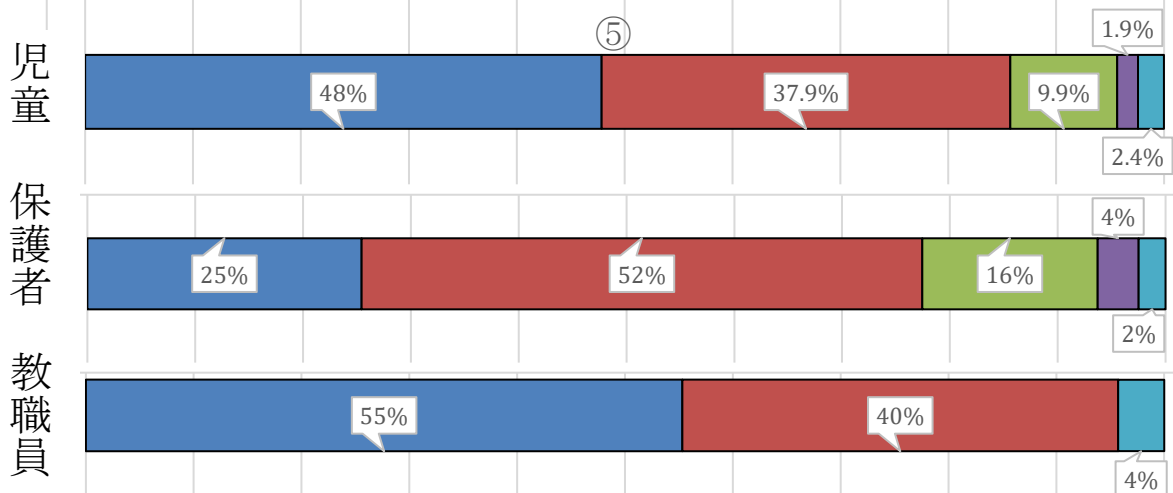
④	児童	保護者	教職員
	災害等（地震・火事・大雨・台風・不審者対応など）の危険を知り、非常の時に安全に行動ができると思いますか。	学校では、児童が非常時に安全に行動できるように避難訓練や集団下校訓練、非常食の備蓄などを行っています。学校は、防犯・防災に対する対策を取っていると思いますか。	災害時における危険を認識し、日常的な訓練を生かし、非常時に自分で考えて、行動できるように指導していますか。



「そう思う/ややそう思う」と回答している児童は90%以上でした。保護者の皆様の回答も、昨年度と同程度でした。日頃の避難訓練の成果が出て、子どもたちに防災意識が定着してきていることが分かります。ただ、保護者の皆様の「わからない」という回答が多めなのは、学校で行っていることの周知があまりできていないためかと考えられます。今年度は、保護者の皆様が訓練の意図を理解し、参加してくれたおかげで、3年ぶりに全校で総合防災訓練・引き取り訓練を実施することができました。訓練効果が高められるよう学校での訓練の様子をお伝えし、非常時にどのような行動をとるかをご家庭でも話し合ってください。学校での訓練の様子をお伝えしていきたいと思ひます。

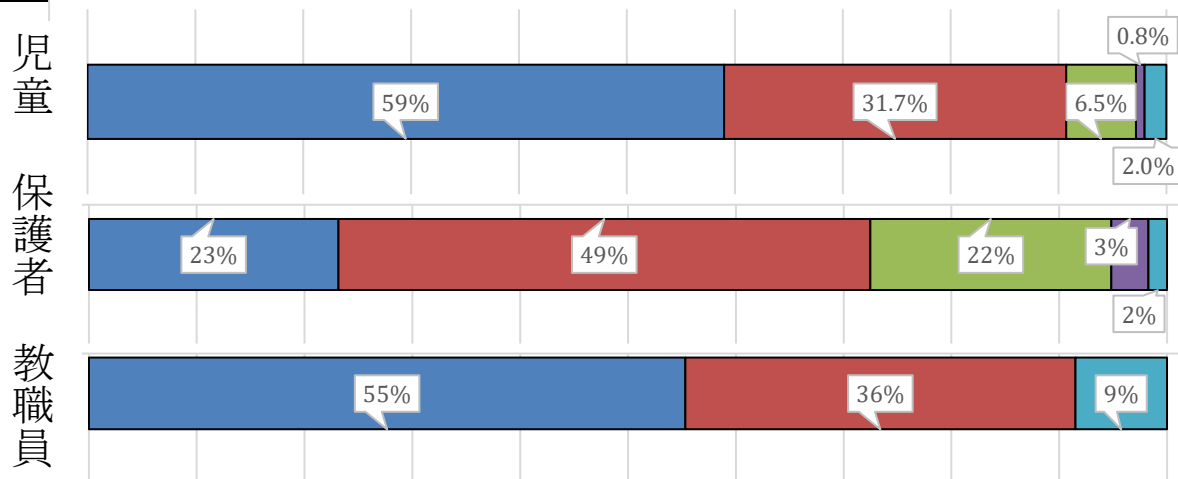
確かな学力 進んで学び合う子

⑤	児童	保護者	教職員
	(低) 学習の後に、「どんなことをがんばったか」「どんなことができるようになったか」などと、じぶんの学習をふりかえることができますか。 (高) 「何ができたか」「なぜできなかったか」など、自分の学習を振り返り、その後の学習に生かそうとしていますか。	学校では、学習の定着を図ったり、次へのめあてを持たせたりするために、振り返りを大切にしています。お子さんは、学習の積み重ねができていると思いますか。	身に付けさせたい資質と能力を明確にし、ねらいを明確にした指導と評価を行っていますか。



児童では学習を振り返ることができていると「そう思う/ややそう思う」が高い割合を維持しています。振り返りの重要性を教職員が感じていることから、振り返りを各教科で取り入れ習慣化できていると思われます。しかし保護者においては、今年度もノートを持って帰ることが少なかったことから、学校での振り返りの習慣は見にくかったと思われます。振り返りの重要性を教師が感じていることで、子どもたちの振り返りが習慣化してきて、保護者に対しては、昨年度に引き続き学習の積み重ねが伝わるように、学習の軌跡がわかるプリントやノートを持ち帰るようにしていきます。

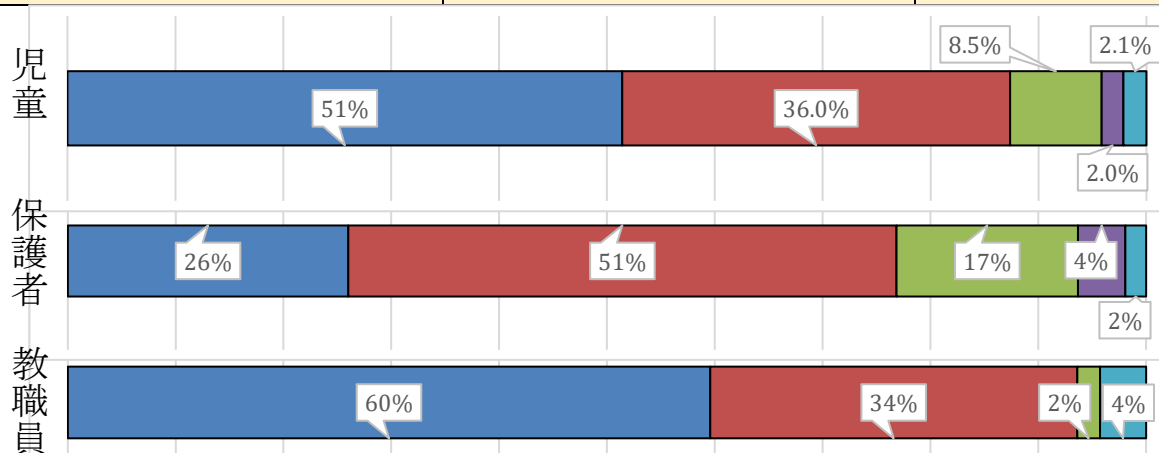
⑥	児童	保護者	教職員
	(低) めあてをもって進んで学習し、最後まであきらめずに問題に取り組んだり、作品を作ったり、練習したりしていますか。 (高) 学習のめあてを意識して、課題や問題に進んで取り組んだり、最後まであきらめずに考えたり、やり方を工夫したりしていますか。	学校は、授業のめあてを意識して主体的に学習できる授業づくりに努めています。お子さんは、自分から課題に取り組んだり、最後まであきらめずに取り組んだりしていると思いますか。	自分が担当する児童の学習状況を見取り、主体的に学習に取り組めるよう、指導計画を考えたり授業準備をしたりしていますか。



今年度も校内研究を通して、「進んで学び合う子」の実現を図ってきました。特に、150周年式典での発表では、「生活科」や「総合的な学習の時間」の学習を生かした内容から、児童自身の取り組みが見える形で実現できました。保護者においても、スポーツフェスティバルや150周年の取り組みなど、学校での学びの姿をご覧いただけたいと思います。

150年という大きな節目を意識し、地域との関わりや意識の高まりが感じられ、「生活科」や「総合的な学習の時間」をはじめ、他の教科とのつながりや学び方の定着という点で大きな成果を得ることができました。今後も授業参観などの機会を通して保護者の方々に児童の学びの姿を示せるように、意欲をもてるような課題や手立てを取り入れて、学習を充実させていきたいと考えています。

⑦	児童	保護者	教職員
	(低) 人の話をしっかり聞き、感想を言ったり質問をしたりすることができますか。 (高) 人の話を聞くとき「その人の伝えたいこと」が分かり、自分の考えをもつことができますか。	学校では友だちとの学び合いを大切にしています。お子さんは大切なことを聞き取ったり、自分の思いを書いたり話したりすることができますか。	児童同士の関わりの中で伝え合いを通して、気付く、広げる力を育てることを意識して指導を行っていますか。

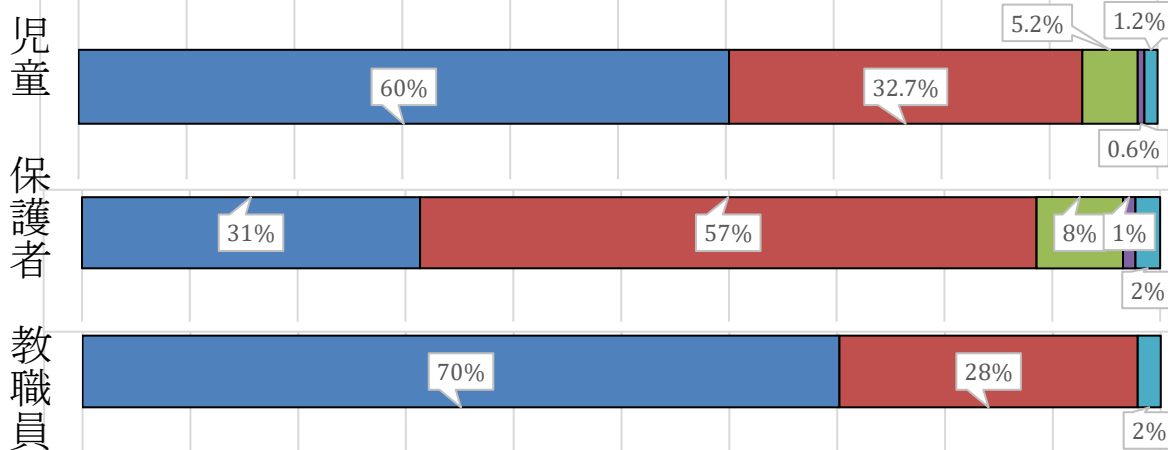


学校として継続的に表現力の育成を図ってきました。児童の回答では約80%が「そう思う/ややそう思う」と答えました。学年の内訳を見ると、高学年に向けて値が高くなっています。伝え合いに必要なスキルの向上と相手意識の高まりが育成されていると共に、それを自覚できるようになってきていることが考えられます。ただ、大切なことを聞き取る力や、自分の思いを表現しようとする意識を、日常生活の中でも発揮する部分に課題が見られます。そのことが、保護者の「あまり思わない」と回答している割合の高さにも表れています。

今後も継続して協働的な学びを多く取り入れることで、大切なことを聞き取り、自分の思いや考えをもつ力を育てていきます。さらに、GIGA端末の活用の幅を広げながら、多様な交流の方法を取り入れ、一人一人が多くの考えに触れたり自分の考えを広げたりしていけるようにしていきます。学校で培った自分の考えをもったり伝え合ったりする力を実生活でも生かしていけるよう指導をしていきます。また、授業参観や学校行事、ご家庭とのやり取り等を通して、児童が力を発揮している様子に触れる機会を設けていきます。

豊かな心 認め合い 助け合う子

⑧ 児童	保護者	教職員
どの友だちも大切に、同じように助けたり、優しい言葉をかけたりしていますか。	学校では、共生*共育プログラムや道徳を通して、子ども同士の関わりを大切にしながら望ましい人間関係の形成に努めています。お子さんは他者の気持ちを考えた行動が身に付いてきていると思いますか。	授業や学級活動などで友達と助け合った場面を価値づけ、一人ひとりが温かい人間関係を築けるよう指導していますか。



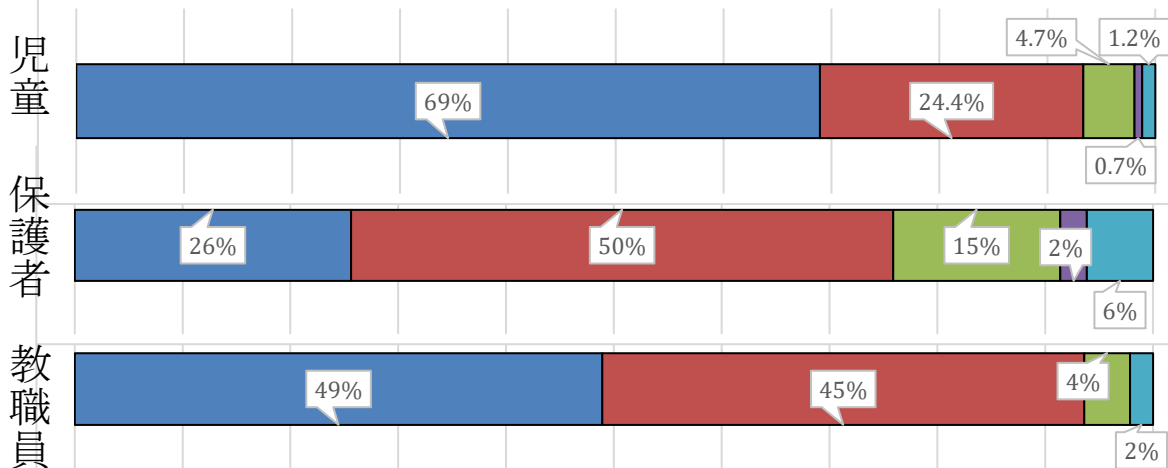
・児童の90%以上が「そう思う/ややそう思う」と回答しています。自己理解や他者理解等について学ぶ「かわさき共生*共育プログラム」や道徳の授業等、市の推進する人権尊重教育を計画的に実施しているため、その積み重ねが現れてきていると考えられます。

・保護者については昨年度とほぼ同程度の割合が示されています。授業参観やその他の取組の中で児童が自然に思いやりの姿を見せていたことが考えられます。

・これからも相手が心地よいと思う接し方や安心して過ごせるための関わり方について、年間を通して継続的に指導していきます。他者に対してよい関わりができた時にはタイミングを逃さず褒め、行動の価値づけを行っていきます。

・本市の進めるかわさき共生*共育プログラムや人権尊重教育に関して、次年度はその取り組み方が保護者の方にも知っていただけるよう、授業参観等で実施していきます。

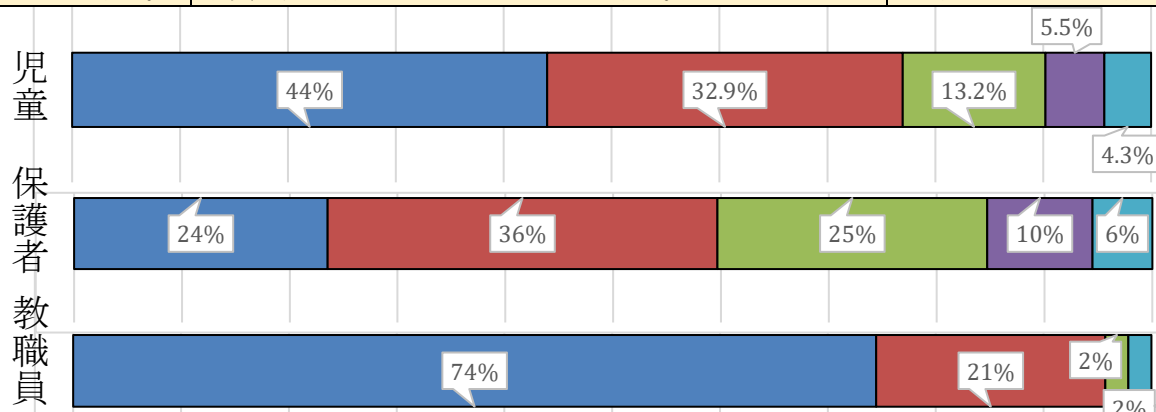
⑨ 児童	保護者	教職員
学校生活をよりよくするために、当番や係・委員会などの自分の役割を進んでこなっていますか。	学校では、委員会活動、学級活動、異学年交流等の中で、子どもたちの自主的・自立的な態度が育つよう支援してきました。お子さんは、自主的に学校生活をよりよくしようとする姿勢が育ってきていると思いますか。	学校生活の様々な場面で児童が自主的に活動できる場を設け、自主的に行えたことを価値付け、さらに意欲をもって取り組めるよう指導していますか。



コロナ禍前の活動がほぼできるようになり、大多数の児童が意欲的に実行委員や係活動などの活動に励んでいる様子が伺えます。ただ、活動を進んで行っていないと回答をしている児童も若干あり、学校生活への意欲低下があると捉えられます。当番、係活動に等に対する保護者の認知は昨年同様あまり高い数値は得られませんでした。日常的な活動が多いため、児童も帰宅後の話題の一つとして挙げるのが少ないことが考えられます。

これからも自主的に他者意識をもって係等の活動にあたっている姿を価値付けし、自ら考え行動できる児童の育成に努めていきます。また、充実感や達成感を味わせることを行いながら、学校生活への意欲低下が見られる児童の意欲増進を図ります。保護者には学校来校時やのびゆくすがたなどの配付物、個人面談等で児童の活動の様子についてお伝えし、頑張っている姿が伝わるように努めます。

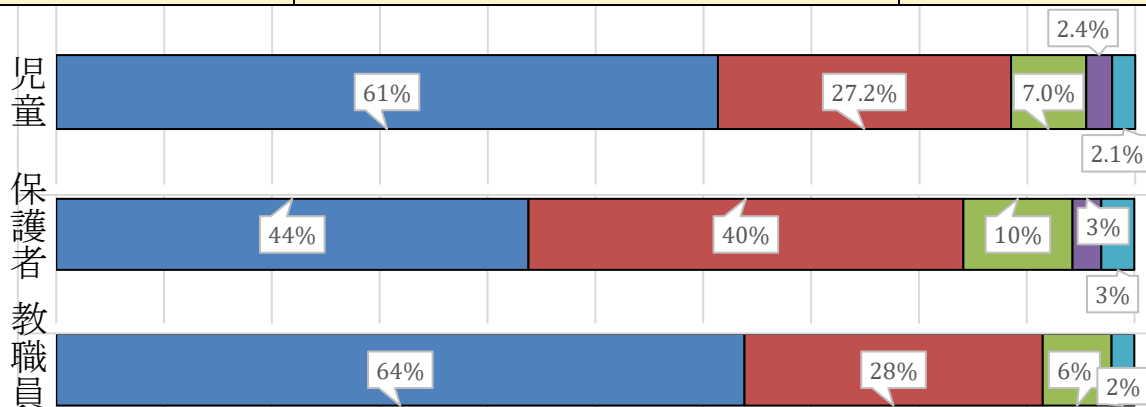
⑩ 児童	保護者	教職員
もし気になることや心配なことがあるとき、担任の先生や他の先生に相談することができますか。	学校では支援教育コーディネーターを中心とした支援体制の充実を図り、児童理解を深めることに努めています。お子さんは、気になることや心配なことがあるとき、担任または教職員に相談することができますか。	児童や保護者からの相談を真摯に受け止め、学年内で情報を共有しながら、児童の困り感に寄り添った対応ができていますか。



児童の「相談できる」と回答している割合は、昨年度とほぼ同じとなりました。今年度も各学年で学年の児童にあった交換授業や読み聞かせなどを行い、担任以外の先生と交流する機会を計画的に実施したことで、様々な先生と話す機会が増え、頼れる大人の選択肢が多くなったことが背景にあると考えられます。半面、相談できないかもしれないと回答している児童がまだ約20%います。困った時に誰を頼ったらよいか考えられない、またはそういう経験がまだないために想像できないことが考えられます。SOSの出し方受け止め方教育を昨年度から全校で行っています。安心して相談できる環境づくりをさらに進め、継続して行っていくことにより、困った時は相談していいという意識を育てていきます。

「自分の子が教師に相談できないのではないかと」考えている保護者が約40%いて、子どもの学校生活を心配していることが伺えます。日常から困ったことがあれば担任や学年の先生、支援教育コーディネーターや巡回カウンセラーといった様々な教職員が児童のことを見守っているのでもいつでも誰にでも相談していいことを広報していきます。このように相談体制の周知を図りながら、保護者からの相談も真摯に受け止め、連携を取りながら解決の道筋を探っていきます。場合によっては専門機関と連携し、よりよい対応ができるように努めます。さらに、日頃から児童の様子を注意深く見守り、異変を察知できるような教職員でいられるよう校内研修等で研鑽を積み重ねていきます。そして、校内で起きた事案については保護者にも丁寧に説明し、理解を得られるように努めます。

⑪ 児童	保護者	教職員
学習や150周年に向けての活動を通して、地域や学校のことについて興味をもつことができるようになりましたか。	学校では、学習や150周年に向けての活動を通して、学校や地いきのことに興味をもつように指導しています。学校やお子さんから、地域や学校に対する意識の高まりを感じられますか。	学習や150周年に向けての活動を通して、地域や学校に興味をもつことができるような指導をしていますか。



児童全体の約88%が「そう思う/ややそう思う」と回答しました。生活科や総合的な学習の時間での学校や地域を素材とした取組に加え、150周年という記念の年を全校あげて盛り上げてきたことが、地域や学校に目を向け、その魅力に改めて気付くことに繋がっていったと考えられます。保護者の約85%が「そう思う/ややそう思う」と回答し、昨年度から15ポイント以上増えました。150周年を意識したスポーツフェスティバルや、150周年の保護者向け発表会で、児童の様子を直接見ていただけたことが大きな理由と考えられます。

児童が継続して地域や学校に興味をもち続けていくよう、地域や学校を取り上げた学習開発に引き続き力を注いでいきます。来年度は川崎市制100周年ということもあり、より広い視野で地域に目を向けていくことが期待されます。学校や地域に目を向けた取組を見ていただく機会を継続して設けながら、活動や児童の様子を理解していただけるよう努めます。